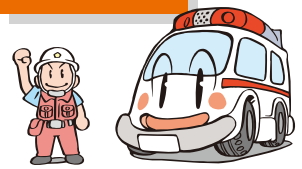


上手に利用

救急医療



急な病気やけがをしたとき、誰もがつい慌ててしまいがちですが、普段から、そのような急な事態に備えておくことが大切です。9月9日は、「救急の日」です。この機会に、救急医療の正しい知識を身に付け、救急車や救急医療を上手に利用しましょう。

本文中に記載がないものは、原則として、対象どなたでも、費用無料、申込不要。
 区 地区市民センター、出 出張所、選 生涯学習センター、参 うつのみや表参道スクエア、HP ホームページ、Eメールアドレス、域 地域自治センター
 地区市民センター、出 出張所、選 生涯学習センター、参 うつのみや表参道スクエア、HP ホームページ、Eメールアドレス、域 地域自治センター、活 市民活動センター

救急車を利用するのはこんなとき

- 呼んでも返事がない(意識がない)
- 呼吸が苦しい、顔が真っ青、息をしていないようだ
- けいれんが続いている
- 急にろれつが回らなくなった、手足の動きが悪くなった
- 車に跳ね飛ばされた
- 高いところから転落し大きなけがをした
- 大出血している
- 急に激しい頭痛・胸痛・腹痛がある など

通報は慌てず正確に

119番にかけたときには、次のことを伝えてください。

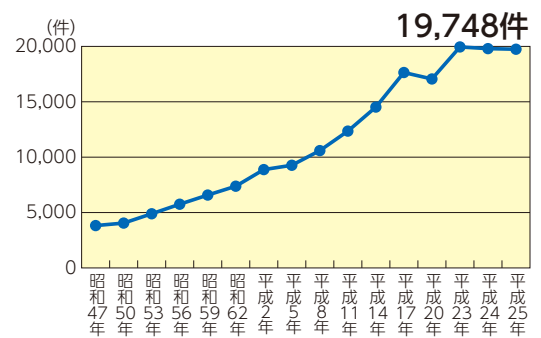
- ①「救急です」
- ②住所・目標になるものを明確に(携帯電話の場合は必ず市町名から)
- ③誰がどのような状態か(呼び掛けたときの反応や意識の状態など)
- ④通報している人の名前と電話番号

増加する救急車の出動件数

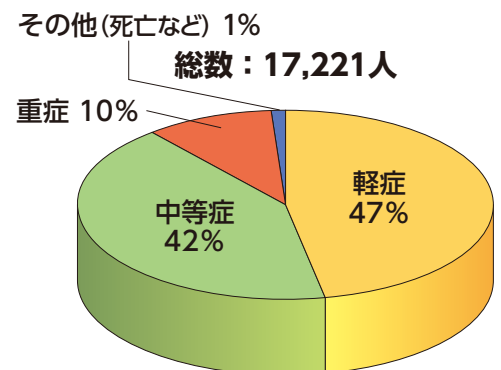
平成25年の救急車の出動件数は、1万9748件(右の表①)。平成5年の出動件数は9269件でしたので、この20年の間で、約2倍に増えたこととなります。

救急車の出動件数が年々増加している要因としては、「人口の増加」や「高齢化社会の進展」などが挙げられています。一方、安易な救急車の利用も指摘されています。また、救急車で運ばれた傷病者の約半数は、入院を必要としない軽症者であ

① 救急車の出動件数



② 傷病程度別の搬送人員割合 (本市 平成25年)



私たちを守る 救急医療体制

初期救急医療機関では、風邪や発熱などの主に軽症患者に対する救急医療を提供しており、市では、「夜間休日救急診療所」で外来診療を実施しています。また、突然の腹痛や骨折などで入院を必要とする場合は、地域の二次救急医療機関

り(右の表②)、このままでは、緊急性のある本当に救急車を必要とする人への適切な救命処置などが遅れ、救える命が救えなくなる恐れも出てくるのではないかと懸念されています。

(病院群輪番制病院などが診療を担当し、さらに、心筋梗塞や脳卒中、頭部外傷など専門的な治療が必要な場合、あるいは初期・二次救急医療機関で対応が困難な場合には、三次救急医療機関(救命救急センター)で救急医療を提供しています。

また、家庭において、子どもの急な病気やけがなどに対応できるよう、「とちぎ子ども救急電話相談」(7ページ図)では、看護師によるアドバイスを実施している他、市では、状況に応じた対処法を分かりやすく解説した「救急受診

